



公益社団法人 日本山岳会

宮崎支部報

第66号



ときめき家族登山 in 高房山

櫻木 勉(13818)

「子供登山」を家族登山」と改め、今回がその二回目である。公募により参加された33名を4班に分け、支部会員21名でサポートした。8時受付の後、開会式を行い、支部長挨拶・スケジュールの説明・諸注意事項伝達・写真撮影・準備体操の後、班毎に出発した。

管理棟から上流に向かって5～6分の登山口で各班ごと記念写真を撮る。登山コースの案内板のMAPを見ながら登山コースをイメージする。秋晴れに注がれる木漏れ日が最高に気持ち良い。遊歩道として整備された尾根筋のコースに添って照葉樹林のゆったりした散策路を辿って行く。小ピークの多いアップダウンのコースを少しずつ登って行くと道脇に「山の神」が安置されている。途中に大きな巨樹・古木も見られ「イタジイ」「タブ」など銘板が付けてあり参考になった。前原会員から詳しい説明があり興味深く聞き入った。樹林帯とはいえ1時間20分が経過、全身に汗が噴き出して、心地よい秋風に癒され反射板の矢印へと進む。「ヤッコソウ群生地」の看板が現れ、高房山の一番の名所で、11月が見頃の様だ。その時節になるとヤッコソウが群れて森の小人達が見れそう。その時を楽しみにしてまた来たいななど思い思いに話題が尽きない。暫くして、左側に大きな電波反射板(国土交通省設置したマイクロ波の反射板)が現れ、その脇を通過して頂上へと向かう、20分後三等三角点標高337mに着く。周りは樹

木に覆われ、景観はゼロだ。子供さん達も難なく登頂。家族写真に達成した感動を収め暫くして引き返す。5～6分の距離に展望所があり、宮崎市街が一望でき、太平洋とシーガイアホテル棟など、宮崎の代表的景観が見れた。武田・前原会員によって草木の下払いの労もあり、気使いが有り難い。反射板付近で昼食、それぞれにホックリする山飯タイム。家族でみえている何組かは、野外でのお弁当は、格別美味しかったことだろう。食後皆で「ネイチャーゲーム」をグループ分けして遊んだ。前原会員の発案であり、自然を探索するビンゴ形式で興味深く楽しめた。復路も同じコースで、14時10分頃管理棟に全員無事着いた。アイスクリームの振舞いに頭の芯まで冷え、疲れがいつぱいに吹っ飛んだ。意外なサービスに全員が笑顔に変わり喜ばれた。閉会式に移り、日高会員より山岳会の活動・会員勧誘などの後、谷口(敏)会員による歌唱指導で懐かしい歌を合唱して爽やかなひと時を過ごし終了となる。参加された皆さんには、次回の参加や支部への入会をぜひ期待したい。

<参加者>

支部会員21名(祐恵子・久義慧子・清水弘子・清家順子・谷口敏子・多田登美子・服部澄子・橋口三枝子・林田明美・高橋節代・前原満之・荒武八起・都甲登好・日高研二・谷口菊美・武田芳雄・酒井保男・多田周廣・櫻木勉・服部岩男・畑島良一)、
公募参加者 33名(子供13名)

ときめき家族登山の感想

〈山のたんけんしたよ〉 たにぐちさあや(小2)

山のぼりの、かんそうを3つはなします。

一つ目は、かいだんやさかのとき、おちそうになったときです。さいしょは、おちそうで、たちどまったとき石がぐずれて、わたしも石みたいにおちないように歩いて、むねがどきどきとなりました。わたしは、セーフと思いました。

二つ目は、やさしさです。きゅうけいのときベンチがあって、ラッキーと思っていたとき、ちかくにいた、おじいちゃんがおかしをくれて、そして、どんどんすすんでいったら、みんなから、おかしやゼリーをもらってうれしかったです。おかあさんのぶちょうさんからゼリーをもらって、とてもげんきになりました。山のぼりのときはもう、もらってばかりで、やさしいなあと思いました。

三つ目は、声かけです。声をかけてうしろの人におしえて、そしたらこけないですすんでケガもしないから、じぶんで見ないでも、あっここだなあと思うからです。ともだちといっしょに山のぼりできたこともたのしいおもいでになります。またいきたいけど、つぎは、ちゃんと体をやすめたいです。

〈楽しかった家族登山〉 荒武(兄弟)

ときめき家族登山におさそいありがとうございました。参加できうれしかったです。とくに良かったことは2つあります。一つ目は、木の名前です。どうゆうことかと言うと、と中の木にかん板があり、そのかん板を見ていろいろな木の名前をおぼえられたからです。

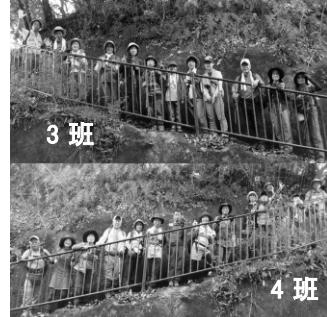
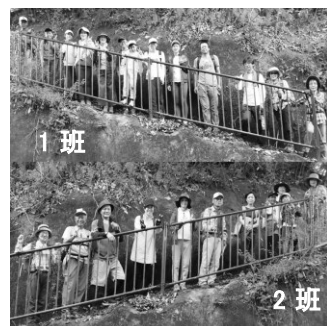
二つ目は、上りが多かったのでつかれましたが、さいきん歩くことが少なかったので、ぼくとしてはこの登山を楽しめて良かったです。来年もできれば、おさそいよろしくおねがいします(晴太、小3)。

今回のイベントの高房山登山には父母と姉二人、そして弟、家族6名全員で参加しました。疲れたけど十分に楽しむことができました。展望台から見る景色がとてもきれいでした。ネーチャーゲームは、難しかったけど、楽しんで探することができました。その中で、木に取り込まれたロープにはとても驚きました。今回の登山で、木の名前や登山に関することなどをいろいろと学ぶことができました。ありがとうございました(晃成、中2)。

〈ときめき家族登山を経て〉 下石 夏央(小6)

先日「ときめき家族登山」に参加させていただきました。登山は三度目でした。とっても楽しい思い出ができました。途中で木の名前が書いた看板がたくさんありました。それを見ていくのも楽しかったです。そして、昼食のあとのネーチャーゲームも楽しかったです。他の参加者の方とお話する機会ができて、とてもいいなあと思いました。

また、いろいろな知識を得ることができました。その中でも印象に残ったのは、毒吸引セットを使ったハチに刺された時の対処法です。実体験をもとに説明されていたので、用意したほうがいいなと思いました。とても楽しい登山でした。最後に食べたアイスもおいしかったです。ありがとうございました。



第34回全国支部懇談会に参加して

都甲 豈好 (12057)

北海道支部主管で平成30年7月21-22日の両日、層雲峡をベースに開催された第34回全国支部懇談会には全国から約190名の岳友が集い盛大に開催された。宮崎支部からも16名が参加したが、この数は主管の北海道支部を除くと東京多摩支部の18名に次いで2番目の参加者数であった。

一日目の15:00から層雲閣ランドホテルで開催された懇談会は、北海道支部・西山泰正支部長の歓迎挨拶に始まり、日本山岳会・小林政志会長の挨拶へと続いた。

15:30からは、層雲峡・大雪山写真ミュージアム館長・市根井孝悦氏による「母なる大地、大雪山に魅せられて～その魅力を全世界に～」と題する記念講演を拝聴した。講演の内容は、高校3年の時、大雪山の素晴らしい景観に出会ったことが、後に大雪山と深く長く関わるきっかけになったこと。所属していた大学の山岳部が大雪山で大量遭難し、その中に親友も含まれていたことから大雪山は、氏の中で特別な存在となったこと。高校で生物の教師をしていた時、大雪山のお花畑の素晴らしさをいくら話しても生徒にはなかなか伝わらないので、大雪山へ教材用写真を撮りに行くようになり、大雪山の

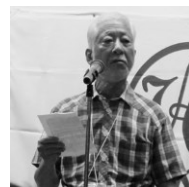
撮影に没頭していったこと。それから20年ほど大雪山の写真を取り、「山と溪谷社」から写真集を出版し、山岳写真家としてデビューしたこと。そして、現在は層雲峡・大雪山写真ミュージアム館を運営している事などを話された。教職を経験された氏の話には説得力があり、写真家としてのスライド画像はとても素晴らしく感動的であった。休憩を挟んで18:00から懇親会に入り、北海道支部長 西山泰正氏の挨拶の後、地元川上町長・佐藤芳治氏の挨拶があり、重廣恒夫・日本山岳会副会長の乾杯で祝宴に入った。出し物として、アイヌ民族踊の披露があり、他支部会員との交流などで盛り上がった。最後に、次回の第35回全国支部懇談会を担当される渡邊雄二・栃木支部支部長が来年に向けての意気込みと懇親会のメの言葉を述べられ一次会が終了した。

二日目は、A,B,Cのコースに分かれて交流登山に参加し、三日目は宮崎支部の山行として緑岳を楽しんだ。最終日、旭川空港に北海道支部・畠山 廸子会員のお見送りを受け、感動の中に旅は終わった。

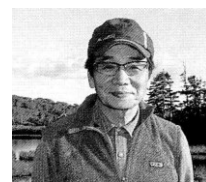
参加者：久峯慧子・谷口敏子・黒岩タカ子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・荒武八起・都甲豈好・末永軍朗・乾正太郎・谷口菊美・武田芳雄・多田周廣・服部岩男・福島龍好・川越政則(16名)



開会挨拶 西山泰正北海道支部長

懇親会挨拶
西山泰正氏乾杯の挨拶
重廣恒夫日本山岳会副会長

アイヌ民族舞踊 井沢家三代

次期開催挨拶
渡邊雄二茨城支部
支部長記念講演
市根井孝悦氏 (懇談会資料より転載)

〈全国支部懇・記念山行Aコース〉

神々の遊ぶ庭～北海道の屋根・大雪山へ

黒岩 タカ子(13615)

早朝、雨具着用でホテル発。約50分で登山口銀泉台に到着。しきりに降っていた雨も小降りとなり登山開始時には時折薄日が射していた。Aコースの参加者は総勢78名で、わが宮崎支部は7名の参加。リーダーの銭亀美佐子氏の案内のもと緊張と不安・期待が交錯するなか、いよいよロングコースの始まり気分一新して臨む。登山口からはすでに北国特有の樹木や巨大なフキの葉、視界が開ける箇所では、雪渓・雪田など雄大な景観が次々と目に飛び込み北の山地の清涼感に浸る。稜線上まで辿ると広大な峰々が広がりを見せ、最盛期には山肌や足元には高山の代表花コマクサをはじめ千種以上の花々が短い夏に一斉に咲き揃うとか・・・今回出会えた花も百数種類。なんと素晴らしい山陵、ここが大雪山・日本の山であることに誇りと喜びを実感する。

さて今回の長い縦走コース、歩けるか心配だった宮崎支部7名も最後まで全員元気に歩き通せたことは驚きと喜びであった。歩行時間9時間。終始アップダウンの連続、雪渓・沢の渡渉、加えて猛烈な強風と濃いガスの発生。強風のため歩行困難な箇所も随所に現れる。強風に関係なく歩行速度も

極端にアップして休憩タイムもコース中3回のみ、唯一の北海平での昼食も4～5分。晴れていたらこの大雪山の絶景が彼方まで見渡せたであろう・・・と残念ではあったが、取り急ぎおにぎりを口に放り込み水分を十分に摂り次の峰を目指す。北海岳から黒岳石室間には大きな御鉢平も横たわり真向かいの稜線は大雪表銀座？ 黒岳～旭岳・愛山溪・裾合平へ至るコースが迫り見える。ここまで来るとコースも終盤。黒岳石室を経て最後の黒岳山頂を目指す。途中、何と幸運なことに小さな恋人シマリス3～4匹が飛び跳ね、愛らしい姿を見せてくれ一同大歓声。これまでの疲れも一挙に癒され黒岳を後にする。黒岳～リフト迄の下りはこれまでの山容とは異なり、奥深く力強い岩稜帯の連続。しかし山肌には美しい色とりどりの花々が彩やかに咲き誇り、Bコースのメンバーも歓声で湧きたったであろうと、想像を膨らませての下山であった。こんな厳しさと美しさを兼ね備えた大雪山の一部分を、北海道支部の敏速な誘導と的確な判断のもと、わが宮崎支部が揃って全コース無事に達成できたことに心からの喜びと感謝とお礼を申し上げます。

(参加者: 黒岩タカ子、服部澄子、栗林淳子、荒武八起、武田芳雄、服部岩男、川越政則)



雪渓を行く



強風の尾根を黒岳へ



リーダー・北海道支部銭亀会員と



お花畑



<全国支部懇・記念山行Bコース> 花と残雪の大雪山系 黒岳 に登る

多田 周廣 (13780)

朝、7時半ホテル出発。今にも雨が降り出しそうな雲行きである。ここから見上げる黒岳の方向は雲に隠れまったく見えない。黒岳ロープウェイの先端は雲間に吸い込まれている。ホテルから10分位のところにロープウェイの改札口はある。ロープウェイで黒岳五合目(標高1,300m)までのぼり、更にリフトに乗り換えて七合目(標高1,520m)まで合計22分で昇り着く。

層雲峡から大雪山系への登山口は古くから開拓されており、大正10年 大町桂月は“北海道の山水を問はば、第一に大雪山を挙げべく、次に層雲峡を挙げべし。大雪山は頂上広くしてお花畑の多き点に於いて、層雲峡は両崖の高く長く奇なる点においていずれも天下無双なり”と感嘆している。黒岳は大雪山系に入り込む最初の山と言っていい。

リフトに乗る頃から晴れ上がってきた。幸い登山道に残雪等はなくアイゼンは要らない。いよいよ頂上まで標高差464mの急峻な登りである。岩のごろごろしたシグザクの登山道に行く。登るほどに残雪をいただく山々が見え始めた。九州には無い壮大な景色である。Aグループが縦走しているであろう銀泉台から赤岳・小泉岳の稜線が見える。ハクサンチドリ・チシマノキンバイソウ・エゾコザクラソウ・タカネバラソウ等の花々が登山道の両端を飾る。その規模はやはり北海道大雪山系。

我々グループリーダーの北海道の会員さんが重そうなリュックを背負っているのは、我々のための水ボトルである。それなりに我々も用意はしてきているのだが、主催者側としてご苦労なことである。スローテンポであったが七合目から二時間弱で頂上に着いた。南西に間宮岳・北海岳・白雲岳の大パノラマである。全山が雪を残している。風が強く寒い。いつまでも眺めたいが耐えられない。その場で食事をしていた他支部会員の帽子が風で飛んだ。遠くの林の中、取りに行けない。この寒さで我が宮崎Bグループは早々と下山。途中で昼食をし、来た道を下った。下山中に黒百合一輪を発見、写真に収める。しかし、ボケた黒百合の写真であった。(参加者:谷口敏子・多田登美子・乾正太郎・末永軍朗・多田周廣・福島龍好)



<全国支部懇・記念山行Cコース> 七合目周辺散策

久峯慧子(12563)

Cコースは名簿上17名だったが、天候がはっきりしなかったためか前日の打ち合わせでは25名前後に増えていた。

当日は地元のチーフリーダーのもと、黒岳ロープウェイとリフトを乗り継いで7合目まで登る。天気も良くなり大雪山系がよく見える。本部詰めの新妻氏も同行されていて色々山名を教えてもらう。リーダーに、30分位細い道を登ると広大な景色の中、遠くに滝も見える小さな広場に出て眺めも良い場所があると紹介された。最近売り出し中のパワースポットとか…。参加者のほとんどがそちらへ向かって登り始めた。やや急な登り道だったが最終地点には「あまおうの滝」の記された看板も立てられており、ここでも雄大な眺めを満喫した。5合目のロープウェイの終点で昼食。

下山後は、昨夜記念講演をされた市根井孝悦氏が館長をされている「層雲峡・大雪山写真ミュージアム」を訪れた。数年前に来館した時は只感動して見て回っただけだったが、今回は幸運にも市根井館長が来られていて、一つ一つの写真に対して情熱を持って説明をして頂いた。何日も、数週間もそこに滞在しての撮影なので臨場感も生々しく伝わってきた。写真の一つ一つが生き生きと輝いて見えた。その後ホテルに帰って解散。

(参加者:久峯慧子・都甲豈好・谷口菊美)



黒岳頂上(Bコース)



7合目付近
(Cコース)

〈7月23日支部山行〉

険しい岩稜帯と天空のお花畑を持つ緑岳へ(2019m)

川越政則(会友A-004)

北海道は何度も訪れているが、山に登るのは今回が初めてで楽しみにしていた。緑岳とはどんな山なのか色々と想像を膨らませながら、朝8:00にホテルを出発した。移動の途中に見る山々の緑はとても濃く、刻々と変わる景色に目を奪われているうちに大雪高原山荘に9:15到着。入念に準備体操を終え9:40いざ出発。コース別に分かれ緑岳を目指すのは男性4名女性2名の計6名。歩き始めてすぐに急登となり息があがる。樹林帯の中を300mほど上がると見晴台に到着。素晴らしい眺めに一息つきお花畑に向って進む。どんな場所でどんな花があるのか考えるだけで歩みが早くなっていく。登りが穏やかになり木道を行くと10:45第1お花畑に到着。しかし今年は雪が多かったため開花が遅れているらしく、木道周辺にしか見られない。それでもサクラソウ、ウラシマツツジ、エゾツガザクラ、チングルマ、ミヤマリンドウ、キバナシャクナゲなど初めて見る花を含めて楽しむことができた。どの花も精いっぱいアピールしているのが感じられ愛おしい。さらに木道を進むと第2お花畑到着。残念ながらこも同じような状況であったが、気持ちを立て直し山頂に向って歩く。難所の雪渓を何ヶ所も渡りハイマツの樹林帯を黙々と進み、最後の休憩所で水分補給をするといよいよ最後の急坂が待ち受ける。気持ちを振り絞り13:10ようやく山頂(2,019m)に到着。天気も良く360度見渡す限りの絶景を堪能。白雲岳や小泉岳などを見ながら遅めの昼食をとった。

昼食もそこそこに13:40下山開始。20分ほど下ると久峯さんが登って来られるのが見えた。皆びっくりしていると「行ける所まで行こう」と私達を追ってきたとのこと。このまま引き返しても下山予定時刻を大幅に過ぎると予想され、支部長の判断で「武田・栗林・黒岩」さん3名を先に下山してもらうことになる。下り始めたものの、到着時間が大幅に遅れ皆が心配している様子が分かるが、携帯電話も全く繋がらない状態で連絡のしようもない。熊の出る危険な山で次第に樹林帯は暗くなる中、焦る気持ちを抑えながら17:30ようやく登山口到着。着くなり皆さんが駆け寄って来られ涙ながらに「良かった、良かった」の大合唱となった。

約束時間がどれだけ大切かということは全員が十分知っていることではあり、私自身も常に胆に銘じていることではあったが、こんな登山行程となってしまうことに責任を感じた。今後は我を知り、地理を知り、そして山を知り、行動に余裕をもって判断ができる個人でありたい。登山口まで無事に到着したことを感謝し、急ぎバスに乗り込んだ。

谷口 敏子 (13062)

神々の遊ぶ庭 - カムイメンタラ

赤印の雪標とほく続く道 北の大地は麦秋の季

両腕を広げてもなほ余りある大雪山 見晴らし息深く吸ふ

襷を裂きて草履を繕ひて大町桂月越えしとふこの大雪山を

神々の遊ぶ庭とふ大雪山 われもシマリと花野に遊ぶ

友六人みどり岳に着く頃と指眼鏡していたすら探す

熊よけの鈴をザックに揺らしつつ暮色を踏みて山下りゆく



山の日のひとつ

もつ鍋に舌鼓

明け方までどうにか持ちこたえていた空から大粒の雨が落ちはじめ、家を出る頃は土砂降りになった。出鼻をくじかれる格好になったが、取りあえず集合場所の丸野駐車場に向かった。集合時間の30分前に着いたが、すでに数名の方が到着されていた。その後、出足は思わしくなかったが、最終的には61名(宮崎支部23名)が受付された。宮崎市山岳協会(市山協)の松崎保忠事務局長が挨拶の中で、「本日は悪天候のため市山協としての公式行事は中止するので、個人・各団体で行動して下さい」との説明の後、集合写真を撮った。

実は今回の山の日、一つの目玉として各団体が「山めし」を調理し、それを披露するという企画があった。そこで、我が支部は櫻木会員・畑島会員のお世話で「もつ鍋」を作るということになり、前日から準備が進められた。キャベツやニラなどの野菜も細かく切られ、殆ど火を通すだけの状態で当日持参された。昼食には未だ間があったので、我が支部会員は雨具装着、あるいは傘を片手に往復1時間半程の時間を約束して加江田溪谷散策に出発した。その間、数名で「もつ鍋」を作り、散策組を待った。一汗かいて戻ってきた会員と共につく「もつ鍋」は実に旨かった。会員からの差し入れや市山協から頂いたスイカで腹を満たした。材料の買い出しから下ごしらえに尽力頂いた櫻木会員・畑島会員に感謝しつつ昼過ぎに解散した。雨のため山は歩けなかったが、コッフェルやガスコンロを使った山料理を岳友と共に楽しめた意義深いひと時であった。

新入会員歓迎会

荒武 八起 (10735)

同日18:00より、宮崎市内の居酒屋「いもがらぼくと」において、新入会員/会友の歓迎会を開催した。当日は新入会友5名: 永友友美氏(旧姓・鬼束)・櫻木幹雄氏・永井平氏・栗巢タツ子氏・蔵屋とよ氏、そして永友友美氏のご家族2名にご参加頂き、支部会員16名で入会を歓迎した。新入会員の自己紹介の後、賑やかに懇談し2時間が瞬く間に過ぎた。お盆前の忙しい時期にも関わらず多数の会員に出席頂いた事に宮崎支部会員の優しさ、そして深い絆を実感した。当日、所用で出席頂けなかった新入会員/会友を含めると今年になって8名の方が支部に加わって頂いた。なお、新入各氏の入会挨拶・自己紹介文は、支部報65号に掲載している。

元気な岳友の入会を心より歓迎しますと共に、楽しく安全な山行を通して支部の活性化にご活躍頂くことを切にお願い申し上げる次第です。



もつ鍋 旨い!



丸野駐車場 集合写真

[事務局だより]

支部行事予定

月別	行 事 名	期 日	備 考
10月	定例山行・紫尾山	10月13日(土)	鹿児島県出水市さつま町
	宮崎家庭裁判所委託登山	10月25日(木)	双石山
11月	第34回宮崎ウエストン祭	11月3日(土)	高千穂町五ヶ所
	同記念登山	11月4日(日)	祖母山
12月	JAC年次晩餐会	12月1日(土)	東京
	双石山清掃登山	12月8日(土)	双石山
	支部年次晩餐会	〃	ひまわり荘
1月	定例山行・高砂山	1月13日(日)	日南市
2月	定例山行・青井岳	2月9日()	山之口町
3月	定例山行・諸塚山	3月2-3日	諸塚村・山開き

支部会務報告(7月-9月)

月日	事業・行事	開催場所	人員	備 考
7.5	支部役員・委員長会議	宮崎市中央公民館	9	第34回宮崎ウエストン祭、第25回中央公民館祭、全国支部懇談会
〃	第232回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	22	〃
7.8	田野の森育林作業	田野町	#	雨天のため中止
7.21-24	第34回全国支部懇談会	北海道・層雲峡	16	懇談会・記念登山(赤岳、黒岳)・支部記念登山(緑岳)
7.29	わくわくの森下草刈作業	綾町	2	
8.2	支部役員・委員長会議	宮崎市中央公民館	9	ときめき家族登山、山の日関連行事、他
〃	第233回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	19	〃
8.11	山の日関連行事	宮崎市鏡洲	23	双石山登山は雨天のため中止、夜は新人歓迎懇親会
9.2	支部役員・委員長会議	宮崎市民活動センター	6	第36回全国支部懇談会、ときめき家族登山、他
9.6	支部役員・委員長会議	宮崎市中央公民館	10	〃
〃	第234回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	30	〃
9.17	ときめき家族登山	高岡町・高房山	54	公募による参加者33名/宮崎支部会員21名
9.21	支部役員・委員長会議	宮崎市民活動センター	7	第36回全国支部懇談会、第34回宮崎ウエストン祭、熊本支部交流会、他
9.25	宮崎家庭裁判所委託登山協議	宮崎家庭裁判所	2	双石山(10月25日)
9.27	第34回宮崎ウエストン祭打ち合わせ	高千穂町役場、他	4	役場、小学校、公民館長、他
9.29-30	全国支部長/事務局長合同会議	東京	2	台風接近のため一日目のみ出席

グループ山行等(届け出分)

月日	山 座	場 所	人員	代表者	日数	備 考
7.26-7.30	妙高山、他	新潟県/長野県	7	橋口三枝子	5	雨飾山、高妻山
7.25-8.5	劔岳、他	長野県	1	武田芳雄	12	五竜岳、鹿島槍ヶ岳、唐松岳
8.19	尾鈴山・白滝	都農町	11	武田芳雄	1	宮崎山友会
9.17-18	高塚山	熊本県	2	黒岩タカ子	2	永峯麗子会員同行
9.23-24	由布岳	大分県	7	武田芳雄	2	宮崎山友会

事務局からのお知らせ

1. グループ登山の届け出の厳守：グループで登山される時は事前に登山計画書を作成し事務局に提出して下さい。
2. 会員の募集について：支部活動を活性化するために会員募集にご協力下さい。

編集後記

秋晴れのもとに行われた「ときめき家族登山 in 高房山」、昨年よりも多い33名の方々に応募いただきました。子供さんの感想文にもあるように好評のうちに終わることができ会員一同安堵したところです。

10月1日予定の66号の発行が遅れましたことお詫び申し上げます。今回は全国支部懇の記事が多くなりました。支部報には随筆・詩・短歌・俳句など皆様方からの寄稿のための自由投稿欄を準備しています。本誌の充実のために積極的な投稿をお願い申し上げます。

野山を散策するのに良い季節になりました。健康増進のために大いに出かけましょう。

クズの花踏みだかれて色あたらこの山道を行き人あり 歌返堂(折口信夫)

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 第66号

発行責任者：荒武 八起

編集責任者：谷口 敏子

事務局：都甲 豈好

〒880-0926 宮崎市月見ヶ丘5-20-4

Tel, Fax 0985-53-0150

E-mail: toko150@miyazaki-catv.ne.jp

口座：ゆうちょ銀行 記号17330-2 番号9336371

名義人：(社)日本山岳会宮崎支部